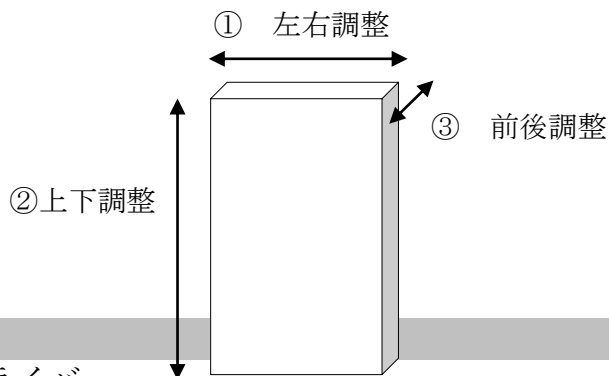


# 丁番 調整方法

👁 扉を上下、左右、前後に調整が可能です。

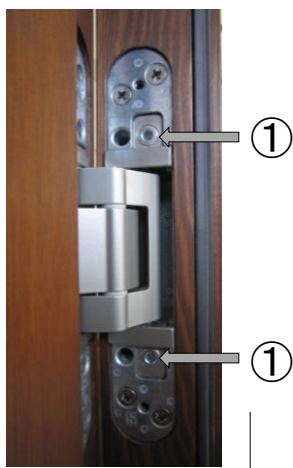
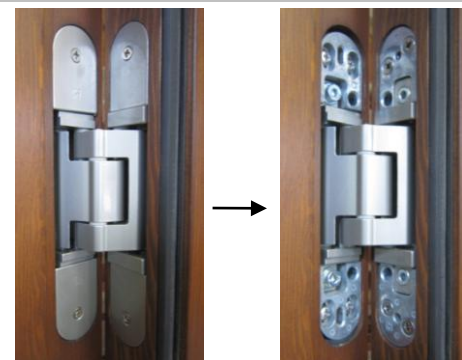


## 用意するもの

- ・ プラスドライバー
- ・ 4mm 六角レンチ

## 方法

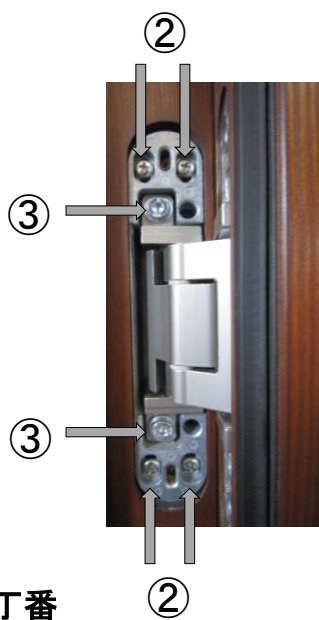
- ・ プラスドライバーで丁番のケースを外します。



扉側 丁番

### ① 左右調整

- ・ 扉側についている丁番です。  
時計回りに回す→扉がハンドル側に移動  
時計回りと逆に回す→扉が枠側(吊元側)に移動



枠側 丁番

### ② 上下調整

- ・ 枠側についている丁番です。  
ビスをゆるめて扉を上下へ移動できます。

### ③ 前後調整

- ・ 枠側についている丁番です。  
六角ボルトをゆるめて扉を前後調整できます。

# ストライクの調節方法

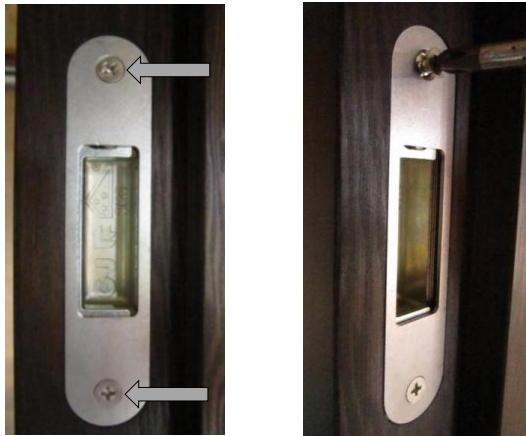
🔑 鍵がかかりにくくなった場合、下記のように調整が可能です。

## 用意するもの

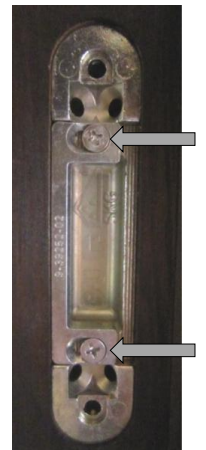
- ・プラスドライバー

## 方法

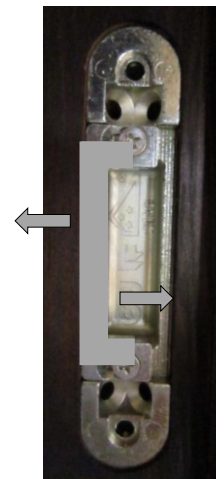
- ① ストライクカバーの2箇所をプラスドライバーで外す。



- ② ( 外観右吊元の場合 )  
カバーを外すと、中はこうなっています。  
次に、この2箇所もプラスドライバーでゆるめます。



- ③ コの字になっている部分は、左右に動かす事が出来るので、その位置によって調整します。



- ④ ②で外したネジを再度しめ直し、  
①で外したカバーをネジで押さえて終了です。

# 【露出型ドアクローザー取り扱い説明書】

安全に永くご使用頂く為に、以下の「注意事項」をよくご理解いただき、正しくお取り扱い下さい。



## 《注意事項》

- 1 この製品は、ドアを自動的に閉じるためのもので、油圧によりゆっくり閉じる構造になっています。  
季節の温度変化等により、ドアの閉じる速度が変わることがあり、極端に速度が速くなると怪我をすることがあります。  
ドアの閉じる速度は、調整弁によりコントロールすることができますので記載してある方法で調整してください。
- 2 本体から油が漏れたり、部品が破損した場合は速やかに施工業者または弊社に修理、交換依頼をしてください。放置しておくと、閉扉スピードのコントロールが効かなくなり事故につながるおそれがあります。
- 3 ドアクローザーは分解、改造しないでください。中の部分が飛び出して思わぬ怪我をしたり、正しく立て直す事が出来なくなります。

## 《お手入方法》

- 1 本体及びアームなどの取付ねじにゆるみが生じてないか時々点検してください。ゆるんでいた場合はねじを締め直してください。
- 2 腐食予防のために本体及びアームは時々掃除をしてください。また、結露が生じた場合は乾いた布で拭いてください。

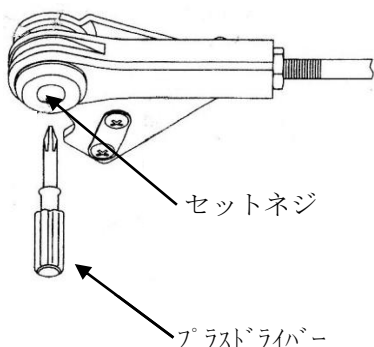
## 《異常を感じられた際の対処方法》

※調整が難しい場合は、施工業者又は弊社にお問い合わせ下さい。

- **ドアの閉じる速度が徐々に速く又は遅くなった場合**  
季節の温度変化などが原因と考えられます。点検箇所は速度調整弁です。速度調整方法を参照願います。
- **ドアの閉じる速度が急に遅くなった場合**  
油の流れがつかまっていると考えられます。点検箇所は速度調整弁です。速度調整方法を参照してください。
- **閉じる際「バタン」と大きな音がするようになった場合**
  - ・ ネジの緩みが原因と考えられます。点検箇所は取付ネジです。ネジを締め付けてください。
  - ・ ラッチング機能が強すぎると考えられます。点検箇所はラッチング調整弁です。ラッチング調整弁の調整方法を参照してください。
- **ドアが所定の位置で止まらなくなった（ストップ付）場合**  
ストップネジのゆるみが原因と考えられます。点検箇所はストップ装置です。ストップ角度調整方法を参照してください。
- **ドアがスムーズに閉まらなくなったり異音が生じるようになった場合**
  - ・ ネジの緩みが考えられます。点検箇所は取付ネジです。ネジを締め付けてください。
  - ・ 1,2速のバランスが悪いと考えられます。点検箇所は速度調整弁です。速度調整方法を参照して下さい。

## ■ ストップ角度調整方法

●ご用意して頂く工具： プラスドライバー



1. 扉をストップさせたい位置まで開いて、セットネジをプラスドライバーで締め直して下さい。  
この時、ストップ位置の噛み合いを完全にするために扉をその位置で軽く振りながらセットネジを強く締めて下さい。

※調整できない場合は、施工業者又は弊社にお問い合わせください。

2. 再度、ストップ位置を変える時は、ストップ位置まで扉を開いてからセットネジを緩めて1. の手順で行って下さい。

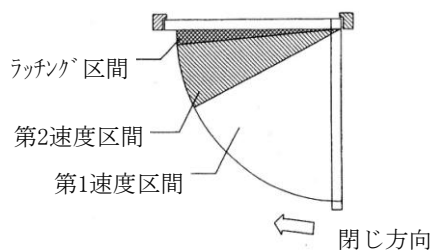
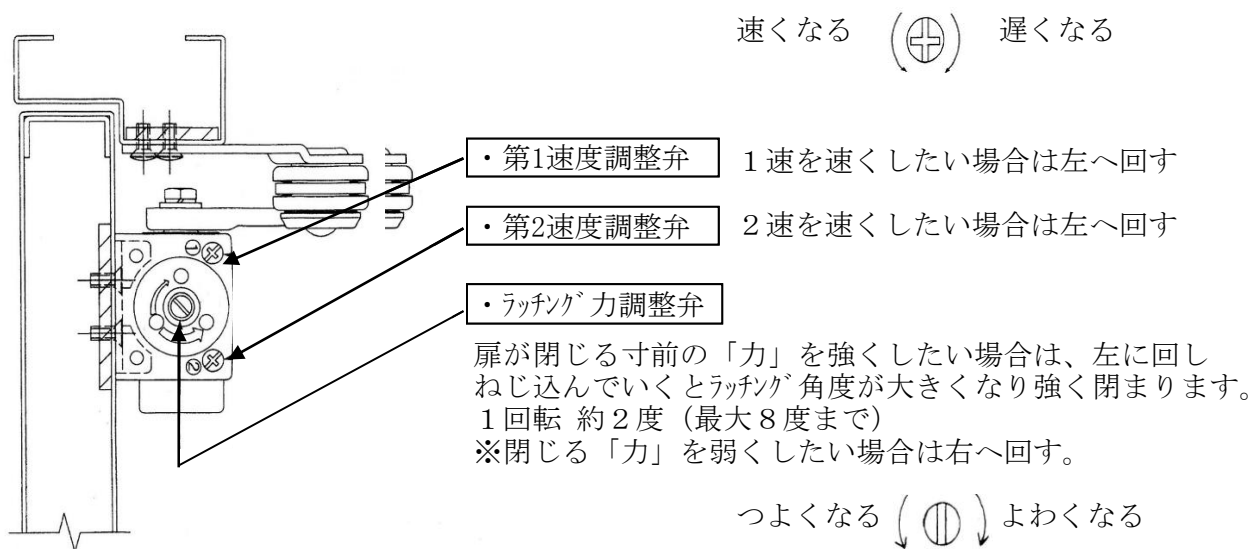
セットネジは、強く締め付けて下さい。  
緩いと部品同士の噛み合いを滑らしてしまい、ストップ不良となります。

## ■ 速度調整の方法

●ご用意して頂く工具： プラス及びマイナスドライバー

ドアクローザーは工場出荷段階で速度調整がされていますので、通常は調整が不要です。もし調整が必要な場合は、次の要領で行ってください。  
ドアが閉まったままでは、ドライバー操作が出来ない場合がありますので、この時はドアは開けた状態で調整して下さい。

- ・調整弁は3つあります。1速弁と2速弁で全体の閉じる速度を調整します。  
下図のように調整弁を左に回せば閉扉スピードは速く、逆に右に回せば遅くなります。



調整弁は必要以上に回したりしないで下さい。緩めすぎると調整弁ははずれ油もれをおこし正常に機能しなくなります。  
電動ドライバーは、故障の原因とな

🔧 閉扉の速度を調整出来ます。

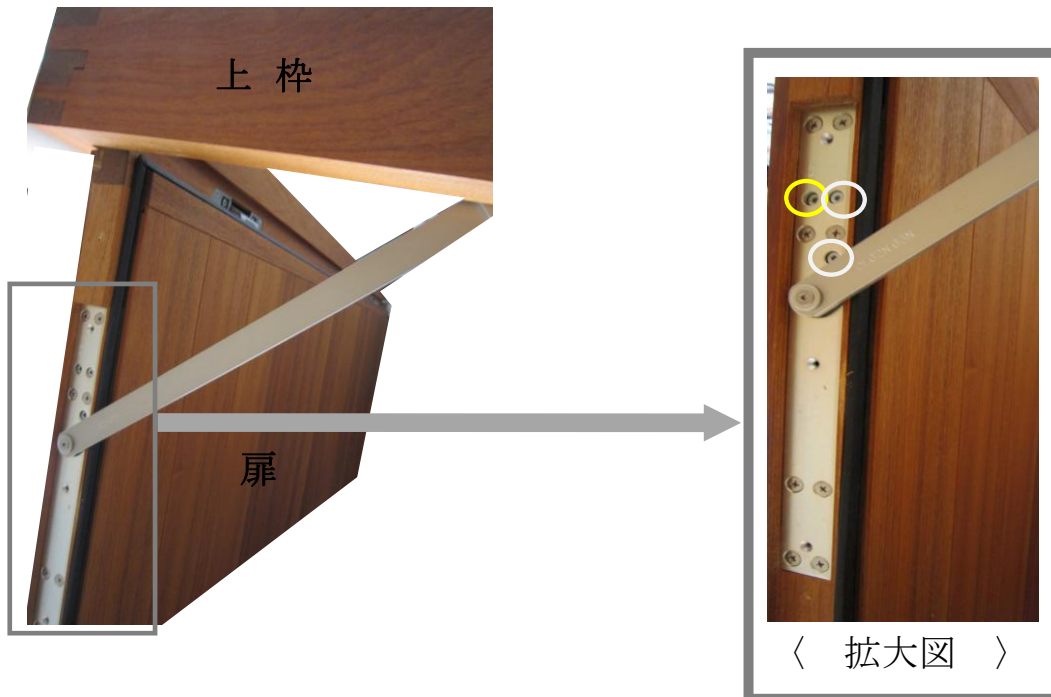
## 用意するもの

- ・ 3mm 六角レンチ

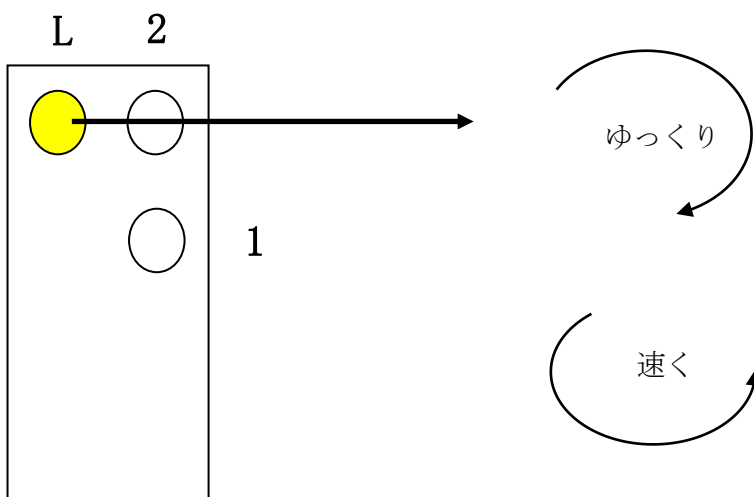
## 方法

- ① 扉を開け、下記のように扉を開いた状態にして下さい。

〈 上から見た図 ・ 扉が開いた状態 〉



- ② 扉が閉まる時の速度は、上記の拡大図・黄色○の部分で調整できます。  
調整方法は、下記図を参考にして下さい。  
( ※コンシールドDC取り扱い説明書もご覧下さい。 )



# 【コンシールドDC取り扱い説明書】

安全に永くご使用頂く為に、以下の「注意事項」をよくご理解いただき正しくお取り扱い下さい。



## 《注意事項》

- 1 本機は油が洩れるとドアが勢いよく速く閉まり、指をはさんだりドアとの接触転倒等による怪我をする危険を伴います。  
本体に油のにじみや洩れが発生し速度調整をしても油圧が効かず、ゆっくり閉まらなくなった場合は、速やかにお取替え下さい。  
強制的な閉扉操作は油が洩れる原因となります。標準速度で閉まっているドアを無理に速く閉めないで下さい。
- 2 速度調整をする場合、緩めすぎると油が洩れるので、調整バルブを本体の表面より出さないで下さい。  
第一及び第二速度の差を極端に大きくすると、故障の原因となります。  
※90° から閉まる迄の適正閉鎖時間は5～8秒です。
- 3 取り付け、据付け時に叩き込まないで下さい。
- 4 直接水のかかる場所（プール、浴室等）には使用しないでください。  
湿気が多い場所には、防錆対策品をご使用下さい。
- 5 強風が吹いている時や、ドアを急に開閉すると、指をはさんだりドアとの接触事故を起す場合がありますので注意して下さい。  
開放限度角度以上に開くとドアや壁などの損傷・本機が破損しドアが転倒する大きな事故が発生する危険があります。  
風の強い場所には、風除室、戸当たりの設置や一方開きにする等の安全措置を講じて下さい。

## 《施工時のお願い》

- 1 ドアを安全に開閉できるように、枠及びドアの補強（裏板）は強固に設置して下さい。
- 2 取り付け、据付け時に叩き込まないで下さい。
- 3 金物の取り付けネジは緩まないように、しっかりと締め付けて下さい。

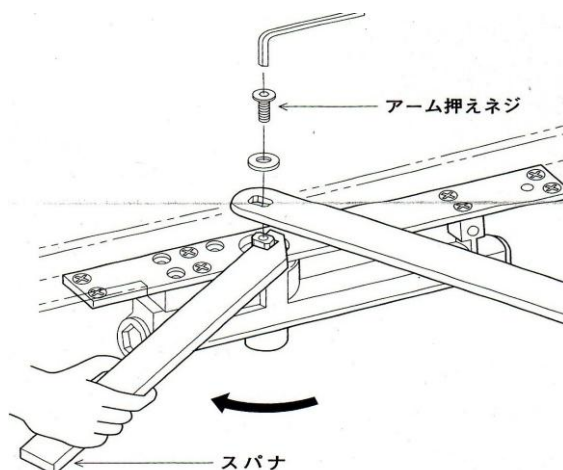
## 《安全管理の点検》

《注意事項》に加えて、次に示す項目を点検して下さい。

- 1 金物がスムーズに作動するか点検して下さい。
- 2 変形、破損、音鳴り、ガタツキがないか点検して下さい。
- 3 取り付けネジの緩み、脱落がないか点検して下さい。

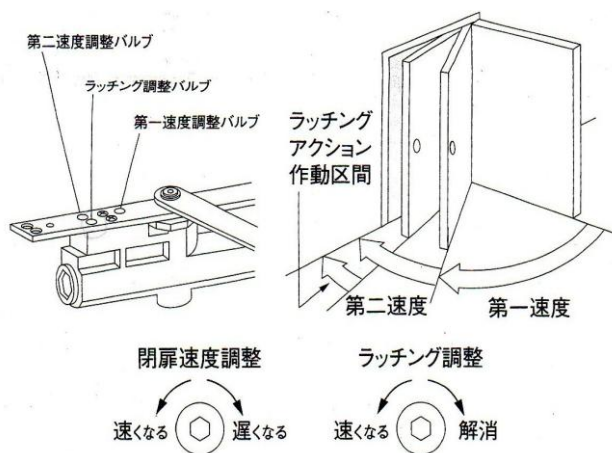
## ■ アームの取付方法

- 1 ドアクローザー本体のピニオン軸を付属工具（スパナ）で回転させ、その状態でアームをピニオン軸に差し込み、その後スパナをはずして下さい。
- 2 アーム押さえネジを付属工具（六角棒スパナ3）でしっかり締め付けて下さい。



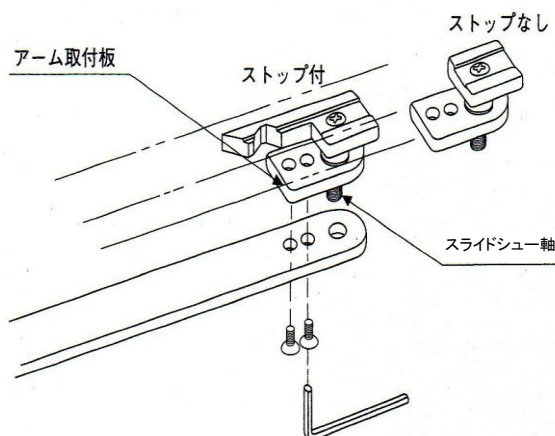
## ■ 閉扉速度調整

製品出荷時に閉扉第一速度は調整してあります。  
閉扉速度を調整するときは下記要領で調整して下さい。



## ■ スライドシューとアームのセット方法

- 1 スライドシューをガイドレールに側面より挿入後、レールを枠又はドア（逆取付の場合）に取り付ける。
- 2 アーム先端部の穴にスライドシュー軸を差し込み、付属工具（六角棒スパナ3）にてアーム取付板をネジ止めする。

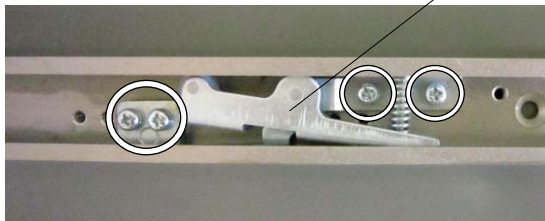


## ■ ストップ位置調整の方法



コンシールドクローザー

〈 下から見た図 〉



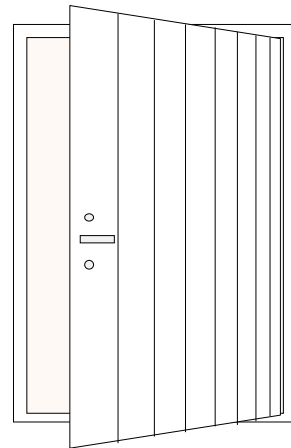
ストップ金具

〈 拡大図 〉

- 1 白○で囲んだ4本のビスを抜きます。
- 2 〈 ストップ角度を小さくする場合は 〉 戸先側に、  
〈 ストップ角度を大きくする場合は 〉 吊元側に、  
ストップ金具をずらし、ビスで固定して下さい。

戸  
先  
側

吊  
元  
側



調整前



調整後

( この写真は角度を小さくする場合の調整方法 )

# ハンドルのぐらつき 調節方法

3点ロック ステンレス丸座ハンドル(オルフェオ、アンディアモ、フォルテ)

☞ ハンドルがぐらつくような場合、下記のように調整が可能です。

## 用意するもの

- ・ マイナスドライバー
- ・ 布
- ・ 3mm 六角レンチ



## 方法

- ① 室内側ハンドルの座の下部にくぼみがあります。ドア表面に傷がつかない様に布などを当て、そこにマイナスドライバーを入れて、ステンレスの座を浮かせて外します。



- ② ステンレスの座を外すと、2本のビスがあります。そのビスを締め直すと、ぐらつかなくなります。締め直した後は、再び座をかぶせます。



- ③ その後、ぐらつきにくくする為に、ハンドルの根元にある六角（3ミリ）を締めます。室内側、室外側、両方して頂いた方が締まります。



## ラッチローラーの調節方法 (押し棒ハンドル・タッチシステム無しの場合)

☞ 障子(扉)の開閉時のクッションを軽くしたり、重くしたり出来ます。

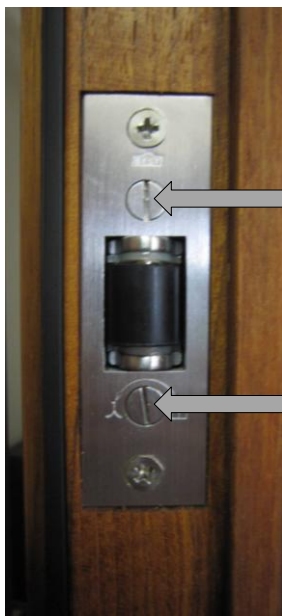
### 用意するもの

- ・ マイナスドライバー

### 方 法



- ・ この部分の2箇所をマイナスドライバーで回すだけです。



\*時計回りに回すとローラーが前に出てきます。

\*逆時計回りに回すと奥へローラーが下がります。

\*上下同じくらい回します。